

連載

Focus  
ON  
GOOD WEDDING

# 病気の母に晴れ姿見てもらうために

## 第8回 家族の“新しい”思い出

The Place of TOKYO アシスタントマネージャー 松井佳苗子氏



人前式では両家母親から2人にメッセージを読み上げてもらう。親同士も共感し合い、家族の絆が深まる

### 人前式の両家 母親メッセージで絆深まる

「結婚式で新たな家族が誕生するというのは、こういうことなんだな」

The Place of TOKYO(東京都港区 以下、TPT)の松井佳苗子さんは、昨年1月に担当した新郎新婦の挙式で改めて実感したという。

最も象徴的だったのは人前式のクライマックス、両家の母親から新郎新婦へのメッセージが読み上げられたシーン。

親から見た2人の性格や幼い頃のエピソード、新生活をスタートさせる2人への激励の言葉などが語られる中、一般的なメッセージと大きく違ったのは、新婦の母親が余命宣告を受けていた点。

「実は、娘にも病気のことを伝えようか伝えまいか、悩みました。伝えたら、結婚式の予定を早めようとする、私のせいで2人の思い描いていた夢が叶わなくなるかもしれないと思ったからです。でも、私の病気を新郎にも理解してもらえ、今日こ

の日を迎えることができ、今は感謝しかありません」

新婦母がメッセージを読み上げている間、新郎の家族も何度もうなずくなど、親同士共感し合う様子が見られ、家族としての絆が一層、深まったように思われた。居合わせたゲストも涙を流すなど、両家の家族としてのスタートを応援したいという一体感も生まれた。

人前式で両家の母親に手紙朗読をお願いしようというアイデアは松井さんが提案したもの。TPTで人前式を挙げる新郎新婦は、照れくささも、メッセージを友人に依頼するケースが大半だが、この2人の場合は、両親に読んでもらうべきだと確信したのだ。理由は、この2人には結婚式を「家族の“新しい”思い出」にしてほしいと考えたため。これは、この結婚式のテーマでもある。

### 病気の 新婦母だけを クローズアップし過ぎない

新郎新婦との最初の出会いは新規接客。新郎新婦と新婦母、

3人で来館し、新婦母が深刻な病にかかり余命宣告を受けていることを打ち明けられる。そのため、結婚式の日程は、来館予約時の予定よりも大幅に早めて、2ヵ月後までに挙げたいとのことだ。

チャペルやバンケットを案内すると、新婦母は「こんなところで結婚式できたら素敵だね」「私のせいで結婚式の期日を早めてしまうね」と涙を見せた。

そんな様子に接した松井さんは、新婦の母に見てもらうための結婚式ではなく、両家が家族としてスタートする新たな思い出になるような1日を目指そうと決意した。そうすることで、新婦母にとっても、この先を生きていく力にしてもらえる結婚式になるのではないかと考えたためだ。上述のシーンもその意図から提案したものだ。

特に注意したのは、新婦母だけをクローズアップし過ぎないこと。深刻な病を抱えているという事情から、どうしても新婦母にフォーカスしがちだが、新

婦父や新郎両親にもスポットライトが当たるように配慮した。

例えば、ファーストバイトの前に両家両親が行う「お手本バイト」。両家の母から父へ、ケーキを食べさせる演出で、新婦から「母にもパールを付けたい」という要望が上がったが、ネックになったのは、控えめな性格の新婦母が賛同してくれるかどうか。松井さんは「結婚式という特別な時だから、絶対、OKしてくれますよ」と新婦の背中を押し、実現させることができた。

### 華やかな場所好み 2人らしく“クラブ”風演出も

また、新郎新婦のやりたいことも妥協せずに堪能してほしいというのも松井さんの“裏テーマ”。新婦母に晴れ姿を見もらうことも大事だが、やはり2人が今後の人生の糧になると思えるかどうかも結婚式の重要な意義だ。「母に見てもらうためにこれは我慢しよう」と諦めさせたくない、新婦母も結婚式当日、



The Place of TOKYO  
アシスタントマネージャー  
松井佳苗子氏

2013年4月、株式会社一家ダイニングプロジェクトに新卒入社。運営する飲食店、婚礼サービスのインターンを経て、The Place of Tokyo 配属。

2016年5月チーフプランナー、2017年9月アシスタントマネージャー昇格。2018年度おもてなしWedding Awardでファイナリストに選ばれ、最優秀ウェディングプランナーに輝く。

2人が屈託なく楽しんでいる方が喜ぶ、「私のせいで色々なことを我慢させてしまった」という負い目を感じずに済むと考えたのだ。

例えば、新規来館時、ゲスト数は親族のみの20~30名を予定していたが、「このタイミングで招待状を送ってもゲストの迷惑になるかもしれない」という考えから友人を招待することを遠慮していた。

、だが、2人は華やかなタイプ

### 2人がやりたいことも我慢せず楽しんでもらう



当初、親族のみを招待予定だったが、友人の多い2人だからこそ大勢に祝福してほしいと考え、60名のゲストに出席してもらえた。2人のリクエストだった“クラブ”風の雰囲気を作るために照明を極限まで落とし、キャンドルサービスは花火のようにきらめく「スパークキャンドル」を使用



要望通りにカスタマイズ  
出来るのが魅力で導入を  
決めました。

ホテル テラス ザ ガーデン 水戸  
総支配人 海野 勝人 様



式場からドレスショップ、お客様まで  
すべてこのシステム  
だけで運用できています。

株式会社大石衣装店  
代表取締役社長 大石 堅 様



新しい機能が次々に  
アップされるのが嬉しいです。

アンフェリシオン  
婚礼・宴会営業担当マネージャー 大平 尚徳 様  
ウェディングプランナー 熊谷 沙織 様

新人プランナーの教育  
にも使っています。

ウェディングサロン吉祥寺 フィオーレ  
支配人 大石 正洋 様



マイページがあることで、お客様が  
安心して当日を迎えられます。

駒ヶ根高原リゾートリンクス  
支配人 嶋村 幸雄 様  
ブライダルプランナー 小森 のぞみ 様  
ブライダルマネージャー 土田 たか志 様  
ブライダルプランナー 峯垣 佐和子 様



注文の変更があっても、  
式場とのやりとりが  
ミスなくできます。

株式会社アクティエ(引出物)  
東京支店 菅原 太 様



ビジネスモデル  
特許  
第5342269号

これ「っでいいね!」

ウェディングに関わる人すべてをHappyにする婚礼・宴会システム

Strategy-Suppli  
ストラテジー サプリ



婚礼システム

検索

http://mybridal.jp

お気軽にお問い合わせください

03-3229-1311

株式会社データマックス

〒164-0012 東京都中野区本町 6-12-11 石川ビル 4 階

「葉 ~ ウェディングプランナー Treasure Box ~」

婚礼業界に携わる支配人・マネージャー・ウェディングプランナーのためのメディア。集客増加や単価アップという現場の業績アップコンテンツはもちろん、プランナーの皆様が本気で自分のキャリアプランを考えたり、真摯にこの仕事に向き合うためのコンテンツをご紹介します。

http://shiori.mybridal.jp

当システムは、ブライダル情報処理におけるビジネスモデル特許を取得しました。<特許第 5342269 号>

# “我慢”するのではなく“楽しんで”ほしい

## 両家が家族としてスタートする記念日に



「お手本バイト」で両家母親にベールを付けてもらうなど、新婦母だけでなく家族全員にスポットライトが当たるように配慮



で、日頃から多くの友人に囲まれている。友人にも祝福されるに越したことはないと考え、「でも、当会場は東京タワーを間近に望むロケーションもあって、ご友人にもきっと楽しんでもらえますよ」と後押しし、最終的には友人も招待し約60名に列席してもらうことができた。

打合せでは、2人が言いかけてやめたことも「教えてください」と聞き出したり、松井さんが離席して戻ってくると途中でやめてしまった会話に対しても「今、何の話されていたんですか?」などと、逃さずキャッチし「こんなことやってみたいけど無理かな」と飲み込んでしまいがちなニーズも、細かく引き出すようにした。

2人らしさを表現するために、最もこだわったのは、再入場シーン。日頃から華やかな場所を好む2人が目指したのは“クラブ”のような雰囲気。お気に入りのクラブミュージックをまとめてきてもらい、新郎には映像演出の制作も依頼した。当日は、極限まで照明の明るさを落

とし、新郎新婦がゲストテーブルを周りながら小さな花火のようにきらめく「スパークキャンドル」を灯す演出も取り入れた。

当日は、この演出の後、友人からのサプライズ動画を上映。当日、列席できなかった友人らの祝福メッセージが流れ、会場のボルテージは最高潮に達した。

再入場の直前、新婦には、お色直しドレス用のブーケというもう1つのサプライズプレゼントが贈られた。贈り主は新婦母。新婦は、予算の都合上「ブーケは1つで良い」と諦めていたが、新婦母は「ドレスに合ったブーケを持たせてやりたい」という親心からプレゼント。「頑固な娘なので、事前に分かっていたら受け取らないと思うので、直前まで秘密にしておいてください」。松井さんは新婦母とメールでやり取りし、新婦にサプライズプレゼントを届けることができた。再入場直前、新婦に「お母様から預かっています」とブーケを渡すと「また、こんなことして」と照れながらも嬉しそうな表情を浮かべてくれた。

## 「母だけでなく自分達のための結婚式でもあった」

一般的に、新郎新婦の家族に辛い事情があるといったパーティーは、感動の涙に包まれるケースが大半だが、この結婚式は笑顔の多いパーティーとなった。新婦母には、体調面の不安もあったためサポートを付けたが、極力、笑顔でいてもらえるよう、日頃から明るく元気な性格のスタッフをアサインし、新婦母には名前でも呼んでもらえる

ほど親しまれることができた。

“クラブ”風の進行演出もさることながら、最大のポイントは新婦が一度も涙を流さず笑顔を絶やさなかったことだ。

「新婦様は打合せ中から当日まで、一度も涙を流しませんでした。芯が強い方だなお見受けしていたのですが、パーティーの終盤、花嫁の手紙朗読で全ての謎が解けました。手紙の一節には「お母さんの病気はストレスも大きな原因だと言われています。私が迷惑をかけて心配させたことも病気の原因になったのではないかと自分を責めたりもしました」といった内容がありました。新婦様は「自分が泣くと、またお母さんに心配をかける、だから涙を見せてはいけない」、そんな思いだったのではないかと察せられ、お互いを思いやる親子の絆に感動しました」

後日、新郎新婦や新婦母から、以下のような結婚式の感想が寄せられた。

「最初、結婚式は母のために挙げようと思っていたけど、終わってみたら自分達のための結婚式でもあったと感じています」

この新婦のコメントからは、松井さんの「今後の2人の人生の糧にもなる結婚式」という「裏テーマ」も表現できたことが窺える。

新婦母からは「私たち夫婦の



新婦母から新婦へのサプライズプレゼント。「娘は頑固だから事前に知ったら受け取らないので…」という新婦母の言葉を受け、再入場直前、「お母様から預かっています」とプレゼント

## 松井佳苗子さんが考える GOOD WEDDING

### 永遠に二人の思い出に刻まれる結婚式

何年経っても「また帰ってきます」、そして「おかえりなさい」と迎えられよう、お客様と会場の関係を築けるのが理想です。TPTが家族の始まりの場所として永遠に思い出に刻まれることで、家族の節目にはレストランを利用させていただいたり、お子様が生まれたら「お父さんとお母さんはここで結婚式を挙げたんだよ」と語り継がれるような関係を目指しています。

そのためには、結婚式自体の満足度向上が不可欠。感動的なシーンとヒートアップしたシーン、緩急のあるパーティーを意識してプランニングに臨んでいます。

35回目の記念日に、式場のレストランにお邪魔できればと思っています」といったメールが寄せられた。

昨年1月時点、「余命3ヵ月」と宣告されていたが、それをねのけ病に打ち勝っている。「結婚式を生きる力にしてほしい」という願いが届いたかのようだ。

「結婚式は新しい家族の始まりだと言われ、実際に何組もの結婚式に立ち会ってきただけに感じる機会もありましたが、特にこの結婚式では両家の家族のつながりを痛感しました。新婦母の状況にフォーカスし過ぎて、涙の結婚式にするよりも、涙だけでなく笑いも熱狂もある笑顔の多い結婚式にできたことで、新たな家族のスタートを明るく彩ることができたのではないかと思います」

## 婚礼組数分だけのお支払いで リニューアルができる 画期的な『レンタルプラン』が誕生!!

メインテーブル&メインチェア  
1組あたり ¥1,400~

スタッキングチェア (80脚)  
1組あたり ¥3,600~

1バンケット  
レンタルリニューアル

☆ ご予算に合わせたご提案をいたします ☆

1組あたり  
¥5,000~